

## 今の生活を楽しむか、将来の資産作りを優先するか GfKのグローバル意識調査

GfKは22の国と地域の27,000人に今の生活を楽しむことと、将来の資産を作ることのどちらを優先させるかという意識調査を実施し、その結果を発表しました。

### 【概要】

- ・グローバルでは38%の消費者が今の生活を楽しむことより将来の資産作りを優先。この考えが最も強いのは香港。
- ・日本では、将来の資産作り優先派が最も多いのは50歳代。60歳代以上は今の生活を楽しむことに積極的。

22の国と地域の27,000人に「貯金や投資の心配は後回しにして、今の生活を楽しみたいか」と尋ねました。その結果、グローバル全体では「そう思う※1」が34%、「そう思わない※2」が38%を占め、将来への資産作りを優先したいと考える人の方がやや多いことが明らかになりました。国・地域別にみると、この将来への資産作り派の割合が最も高かったのは香港で54%、次いでチェコ共和国が49%、ブラジル45%となりました。一方、今を楽しみたい派の割合が高かった上位3カ国は、トルコ(42%)、中国(38%)、スウェーデン(37%)となりました。

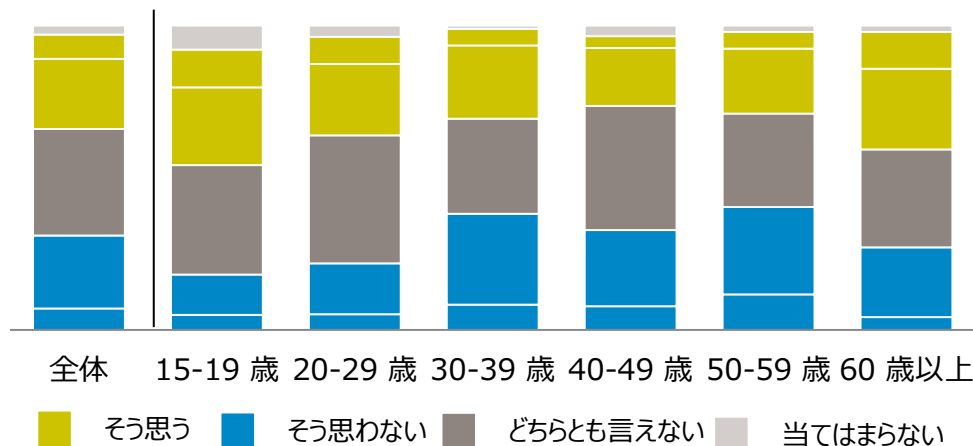
貯蓄や投資に対する地域、性別、年代ごとの意識の差を把握することは、金融や保険の商品・サービス展開における重要な要素です。

日本の状況を見ると、「貯金や投資の心配は後回しにして、今の生活を楽しみたいか」という設問に対し、「そう思う」と「そう思わない」の割合は等しく、共に31%を占めました。男女別にみると、女性では「そう思わない」とした将来への資産作り派が34%に上り、男性(28%)より多いことが明らかになりました。この傾向はグローバルと同様で、背景には男女の生涯年収や預貯金の差があるとみられます。また、日本では女性が家計を管理するケースが多く、その分将来の資産に対してもシビアな見方をしがちであることも一因と考えられます。

年代別にみると、15-19歳、20歳代では今を楽しみたい人の方が多くなりましたが、30歳代で状況が反転し、将来の資産作りを優先したいと考える人の方が多くなりました。30歳代は配偶者や子供をもつ人が増え、将来のことが気になりだす年代と考えられます。また、将来への資産作り派の割合が最も高かったのは50歳代で4割に上りました。リタイアメントを間近に控え、老後の生活資金に不安を感じている人が多い年代であると言えます。この一方で、60歳代以上では、再び今を楽しみたい派の方が多いという結果になりました。実際にリタイアメントを迎え収支の予測がしやすくなっていることもあり、グローバルでは、60歳代以上は50歳代並みの高い割合で将来への資産作りを優先したい人が多いという結果が出ており、現在の日本の60歳代以上は、世界的にみると今を楽しむことに積極的であると言えます。

※1「完全にそう思う」と「ややそう思う」の計、※2「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」の計

図1. Q.貯金や投資の心配は後回しにして、今の生活を楽しみたいですか？



-- 調査概要 --

調査国：世界22の国と地域（アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、中国、チェコ共和国、フランス、ドイツ、香港、イタリア、日本、メキシコ、オランダ、ポーランド、ロシア、韓国、スペイン、スウェーデン、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国）

調査対象：15歳以上の消費者27,000人， 調査方法： インターネット調査， 調査時期： 2015年夏

※本リリースに関するお問い合わせ先

GfK ジャパン  
広報グループ 茶野 絢子  
tel : 03-5350-4632 Email : info.jp@gfk.com